

中央アジア・シンポジウム

～未来を見据えた中央アジアの今：チャンスとチャレンジ～



日時：平成27年3月27日（金）13：00～17：45

場所：東京大学大学院数理科学研究科大講義室
（駒場キャンパス）

入場無料
日露同時通訳有

【プログラム】

- 挨拶 中根一幸外務大臣政務官
基調講演 田中明彦国際協力機構理事長
第1部 中央アジアを巡る国際環境
第2部 中央アジア地域の課題と日本の協力の可能性

入場は事前登録制

登録申し込みはグローバル・フォーラム事務局まで

URL: <http://www.gfj.jp/j/> E-mail: dialogue@gfj.jp

- 共 催：グローバル・フォーラム
外務省
東京大学大学院総合文化研究科「人間の安全保障」プログラム
The Japan Times
後 援：日本貿易振興機構（JETRO）
（一財）貿易研修センター
日本経済新聞社

プログラム

13:00~13:40

外務省挨拶 中根一幸外務大臣政務官

グローバル・フォーラム挨拶 伊藤憲一グローバル・フォーラム代表世話人

基調講演 田中明彦国際協力機構理事長・グローバル・フォーラム有識者メンバー

13:45~14:35

第一部 「中央アジアを巡る国際環境」

セッション1 「中央アジアの地政学的重要性」

●アンドリュー・クーチンス (米国) CSISロシア・ユーラシア・プロジェクト長

●ドミトリー・トレニン (ロシア) カーネギー・モスクワ・センター所長

14:35~15:25

セッション2 「中央アジアの安定：アフガニスタン情勢との関係から」

●フドベルディ・ホーリクナザル (タジキスタン) タジキスタン戦略研究センター所長

●ウクタム・ナシロフ (ウズベキスタン) 大統領付属地域間戦略研究所プロジェクト長

15:35~16:25

第二部 「中央アジア地域の課題と日本の協力の可能性」

セッション1 「中央アジアの運輸・物流」

●グルバンムハメット・カシモフ (トルクメニスタン) トルクメニスタン外務省特任大使

●アブドゥラ・クンダクバエフ (カザフスタン) カザフスタン国際商工会議所会頭顧問

16:25~17:15

セッション2 「水とエネルギー」

●エルミラ・ノゴイバエヴァ (キルギス) 「ポリス・アジア」分析センター長

●廣木謙三 (日本) 国土交通省水管理・国土保全局水資源部水資源計画課長

17:15~17:30

総括

申し込み方法

グローバル・フォーラム事務局宛に以下の必要事項をご記入の上、お申込みください。

URL : <http://www.gfj.jp/j/> E-mail : dialogue@gfj.jp FAX : 03-3505-4406

必要事項

①氏名(日英両表記)、②所属・肩書き(日英両表記)、③連絡先(住所、電話番号&E-mail)

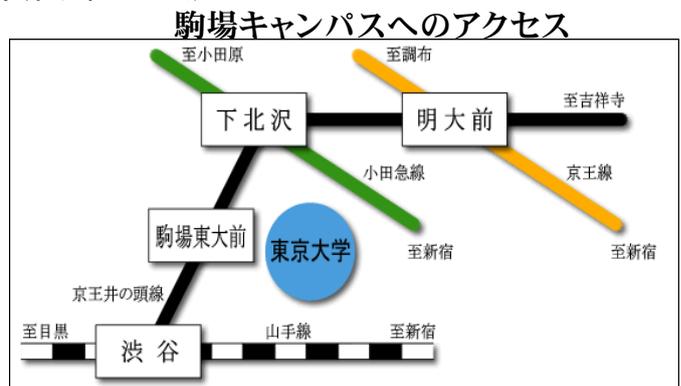
お問い合わせ先

グローバル・フォーラム TEL : 03-3584-2190 (東京都港区赤坂2-17-12-1301)

外務省欧州局中央アジア・コーカサス室 TEL : 03-5501-8302 (東京都千代田区霞が関2-2-1)

会場(住所：東京都目黒区駒場3-8-1)

東京大学大学院数理科学研究科「大講義室」(駒場キャンパス)



渋谷駅 (JR山手線等)より京王井の頭線 (吉祥寺方面行) - 駒場東大前駅下車

中央アジア・シンポジウム Central Asia + Japan Symposium

13:00～ 開会挨拶: Opening Remarks		
13:00～ 13:10	外務省挨拶 Opening by Representative from Ministry of Foreign Affairs, Japan	中根一幸外務大臣政務官 Mr. Kazuyuki Nakane, Parliamentary Vice-Minister for Foreign Affairs
13:10～ 13:15	グローバル・フォーラム挨拶 Greeting by Representative from The Global Forum of Japan	伊藤憲一グローバル・フォーラム代表世話人 Hon. Dr. Kenichi Ito, Chairman, The Global Forum of Japan
13:15～ 13:35	基調講演 Keynote Speech	田中明彦国際協力機構(JICA)理事長 Dr. Akihiko Tanaka, President, JICA
第一部:「中央アジアを巡る国際環境」 Section 1: International Circumstances surrounding Central Asia		
セッション1:「中央アジアの地政学的重要性」 Session 1: Geopolitical Importance of Central Asia		
13:40～ 13:45	モデレータ挨拶 Opening by Moderator	武藤顕外務省欧州局参事官(中央アジア担当外務省特別代表) Amb. Akira Muto, Special Representative for Central Asia, Ministry of Foreign Affairs, Japan
13:45～ 14:00	報告A Speech A	クーチンスCSISロシア・ユーラシア・プロジェクト長 Dr. Andrew Kuchins, Director and Senior Fellow, CSIS Russia and Eurasia Program
14:00～ 14:15	報告B Speech B	トレニン・カーネギー・モスクワ・センター所長 Dr. Dmitry Trenin, Director of the Carnegie Moscow Center
14:15～ 14:35	自由討論 Free Discussion	
セッション2:「中央アジアの安定:アフガニスタン情勢との関連から」 Session 2: Stability in Central Asia in Relation to Afghanistan		
14:35～ 14:50	報告A Speech A	フドベルディ・ホーリクナザル・タジキスタン大統領付属戦略研究所長 Mr. Khudoberdi Kholiknazar, Chairman of the Centre for Strategic Research under the President of the Republic of Tajikistan
14:50～ 15:05	報告B Speech B	ウクタム・ナシロフ大統領付属戦略・地域間研究所プロジェクト長 Mr. Uktam Nasirov, Head of Project, Institute for Strategic and Regional Studies, Uzbekistan
15:05～ 15:25	自由討論 Free Discussion	
15:25～15:35 休憩: Break		
第二部:「中央アジア地域の課題と日本の協力の可能性」 Section 2: Challenges in Central Asia and the Possibility of Japan's Cooperation		
セッション1:「中央アジアの運輸・物流」 Session 1: Transportation/ Logistics		
15:35～ 15:50	報告A Speech A	グルバンムハメット・カシモフ・トルクメニスタン外務省特任大使 Mr. Gurbanmuhammet Kasyomov, Special Envoy of the Ministry of Foreign Affairs of Turkmenistan
15:50～ 16:05	報告B Speech B	アブドゥラ・クンダクバエフ・カザフスタン国際商工会議所会頭補佐 Mr. Abdulah Kundakbayev, Chamber of International Commerce of Kazakhstan, Advisor to the President, Chief Executive Officer
16:05～ 16:25	自由討論 Free Discussion	
セッション2:「水とエネルギー」 Session 2: Water and Energy		
16:25～ 16:40	報告A Speech A	エルミラ・ノゴイバエヴァ「ポリス・アジア」分析センター代表 Ms. Elmira Nogoibaeva, Director, Analytical Center "Polis Asia"
16:40～ 16:55	報告B Speech B	廣木謙国土交通省水管理・国土保全局水資源部水資源計画課長 Dr. Kenzo Hiroki, Director, Water Resources Planning Division, Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
16:55～ 17:15	自由討論 Free Discussion	
17:15～17:30 総括: Conclusion		

[NOTE] 日本語・ロシア語同時通訳付き / Russian-Japanese simultaneous interpretation will be provided

略 歴

【日本】

中根 一幸

外務大臣政務官

日本体育大学体育学部健康学科卒。2005年第44回衆議院議員選挙初当選。2014年9月より現職。

伊藤 憲一

グローバル・フォーラム代表世話人

1960年一橋大学法学部を卒業し、外務省に入省。ハーバード大学大学院留学。在ソ、在比、在米各大使館書記官、アジア局南東アジア一課長等を歴任し、1977年退官。1980年に青山学院大学助教授、米戦略国際問題研究所（CSIS）東京代表に就任したが、1987年日本国際フォーラム創設に参画し、現任同理事長、グローバル・フォーラム代表世話人、東アジア共同体評議会会長、青山学院大学名誉教授等を兼任する。2011年カンボジア大学より国際問題名誉博士号を贈られた。おもな著書に『国家と戦略』（中央公論社、1985年）、『新・戦争論：積極的平和主義への提言』（新潮社、2007年）、監修書に『東アジア共同体白書二〇一〇』（たちばな出版、2010年）などがある。

田中 明彦

国際協力機構（JICA）理事長

東京大学教養学部卒、マサチューセッツ工科大学政治学部大学院修了（Ph. D.）。東京大学教養学部助教授、東洋文化研究所教授・所長、大学院情報学環教授、国際連携本部長、理事、副学長を歴任、2012年4月より現職。『新しい「中世」』、『ワード・ポリティクス』、『ポスト・クライシスの世界』など著書多数。2012年紫綬褒章受章。

廣木 謙三

国土交通省水資源部水資源計画課長／内閣官房水循環政策本部事務局参事官

東京大学工学部土木工学科卒、同大学大学院新領域創成科学研究科博士課程修了（Ph. D.）。国内外において水資源管理及び水災害分野に30年以上携わる。第3回世界水フォーラム事務次長。2000年～2003年には国連水と衛生に関する諮問委員会事務局長を務める。

武藤 顕

中央アジア担当外務省特別代表

東京大学経済学部経済学科卒。在ロシア日本国大使館一等書記官、参事官を経て、欧州局ロシア課長。総合外交政策局総務課長、在ボストン日本国総領事館総領事。2014年7月より現職。

【ロシア】

ドミトリー・トレニン (Dmitry Trenin) カーネギー・モスクワ・センター所長

軍事外国語大学卒、ロシア科学アカデミー米加研究所卒 (Ph. D.)。1993年～2008年カーネギー・モスクワ・センター副所長、2008年より現職。

【アメリカ】

アンドリュー・クーチンス (Andrew Kuchins) CSISロシア・ユーラシア・プロジェクト長

ジョンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院卒 (Ph. D.)。スタンフォード大学ソ連・旧ソ連地域研究所所長代理、スタンフォード大学国際安全保障・協力研究所副所長、カーネギー・モスクワ・センター所長を経て、現職。

【中央アジア】

[カザフスタン]

アブドゥラ・クンダクバエフ (Abdulah Khundakbaev) カザフスタン国際商工会議所会頭補佐

モスクワ国際関係大学国際関係学部卒。カザフスタン外務省、カザフスタン大統領府、カザフスタン中央銀行での勤務を経て、2014年より現職。

[キルギス]

エルミラ・ノゴイバエヴァ (Elmira Nogoibaeva) 「ボリス・アジア」分析センター長

キルギス・ロシア教育アカデミー経済学部卒。キルギス共和国大統領付属国際戦略研究所編集・出版部長、キルギス外務省付属外交アカデミー外交政策センター長を経て、2007年より現職。

[タジキスタン]

フドベルディ・ホーリクナザル (Khudoberdi Kholiknazar) タジキスタン戦略研究センター所長

タジキスタン国立大学東洋言語学部ペルシャ語学科卒。タジキスタン科学アカデミー終了 (Ph. D.)。外務大臣 (1992年)、労働雇用大臣 (1998年～2000年)、大統領顧問を経て、2009年より現職。

[トルクメニスタン]

グルバンムハメット・カシモフ (Gurbanmuhammet Kasymov) トルクメニスタン外務省特任大使

マフトゥムグリ名称トルクメニスタン国立大学卒。トルクメニスタン検察庁検事総長、副首相、内務大臣、国防大臣、法務大臣を歴任。駐中国大使、駐カザフスタン大使を経て、2014年より現職。

[ウズベキスタン]

ウクタム・ナシロフ (Uktam Nasirov) 大統領付属地域間戦略研究所プロジェクト長

ウェストミンスター大学タシケント校卒。2012年より現職。

中央アジア諸国

平成27年1月
欧州局 中央アジア・コーカサス室



ナザルバエフ大統領
デンギス湖



カリモフ大統領



ベルディムハメドフ大統領



	人口(2014年, 国連人口基金)	GDP (2013年, IMF)	一人当り GDP (2013年, IMF)	代表的な産業
カザフスタン	1,660万人	2,319億ドル	13,508ドル	鉱業(石油, ウラン等), 農業, 金属加工
キルギス	560万人	72億ドル	1,280ドル	農業・牧畜業, 鉱業(金)
タジキスタン	840万人	85億ドル	1,045ドル	アルミニウム生産, 水力発電, 農業
トルクメニスタン	530万人	408億ドル	7,157ドル	鉱業(ガス), ガス加工, 農業・牧畜業
ウズベキスタン	2,890万人	568億ドル	1,878ドル	繊維(綿), 農業・食品加工, 鉱業(金, ガス)
日本	1億2,700万人	4兆8,985億ドル	38,468ドル	

「中央アジア+日本」対話

【第5回外相会合】

開催日： 平成26年7月16日(水)(於:ビシュケク)

参加者： 中央アジア5か国及び日本の外務大臣(キルギス(議長国), カザフスタン, タジキスタン, トルクメニスタン, ウズベキスタン)

意義

地域協力の必要性

ソ連崩壊後、中央アジアが安定し、自立的に発展するためには地域協力の推進が重要。

日本の役割

中央アジア諸国は、独立後約20年に及ぶ支援等もあり親日的。
→各国からの信頼がある日本は、地域協力の「触媒」としての役割を果たし得る。

成果

(1) 次の「10年」への展望を共有

- ・対話の立ち上げから10年の節目。これまでの対話を中心とした枠組みから、実践的な地域協力を志向する枠組みへと深化させるとの認識を共有。

(2) 地域協力の進展(農業, 麻薬対策・国境管理, 防災)

- ・農業の地域協力に関し、推進すべき具体的分野と今後の方針について合意。
→日本の技術と経験を活用し、官民で地域に資する二国間案件の形成に協力。
~こうした考え方と協力の具体例を記した「ロードマップ」を発表
- ・(アフガニスタン情勢を念頭に)麻薬対策・国境管理, 防災等での連携を確認。

(3) 共同声明の発出

- ・日本が平和国家としての原則に基づき国際社会の平和と安定に一層貢献する意向への評価。
- ・領土一体性と国境の不可侵, 力による威嚇あるいは国際関係における武力行使の放棄など国際法の原則に基づく紛争の平和的解決の重要性を確認。
- ・軍縮・不拡散分野での協力等についても記載。

経緯

2004年 8月	第1回外相会合(カザフスタン・アスタナ)
2006年 6月	第2回外相会合(東京)
2010年 8月	第3回外相会合(ウズベキスタン・タシケント)
2012年11月	第4回外相会合(東京)
2014年 7月	第5回外相会合(キルギス・ビシュケク)

- 外相会合は原則として2年に一度開催。
- 外相会合の準備のための高級実務者会合(SOM)を8回開催。
- 専門家・有識者による知的対話である「東京対話」を6回開催。



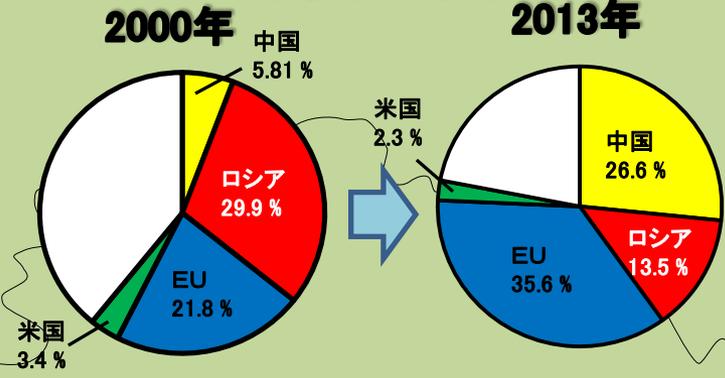
Central Asia plus Japan
「中央アジア+日本」対話10周年のイメージキャラクター。
19世紀の中央アジア・コーカサスを舞台にした「乙嫁物語」(「マンガ大賞2014」受賞作)の森薫さんのデザイン。

中央アジア諸国の対外貿易関係(米・露・中・EU)

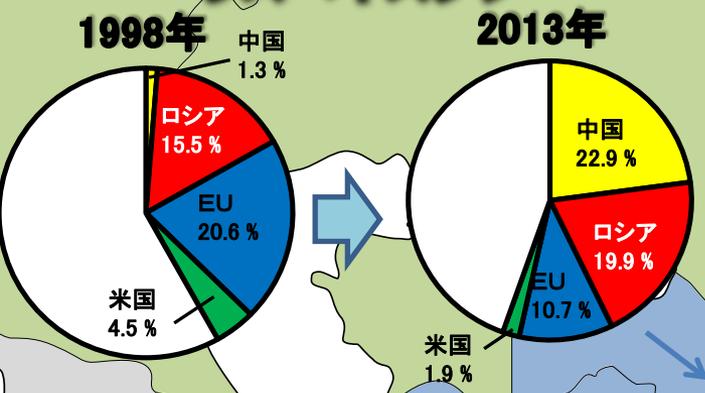
【注】

- ユーラシア経済同盟条約署名国
- その他
- 対露・中・米・EUの貿易額割合
(出展: EU/国連統計)

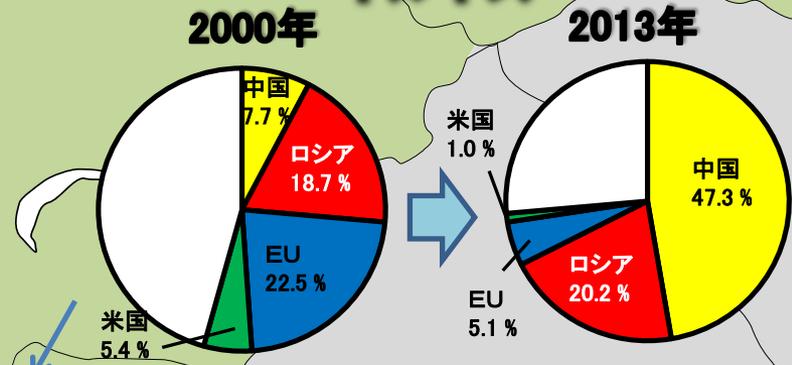
カザフスタン



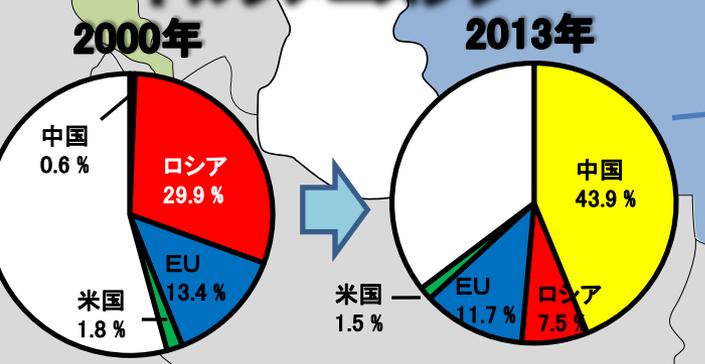
ウズベキスタン



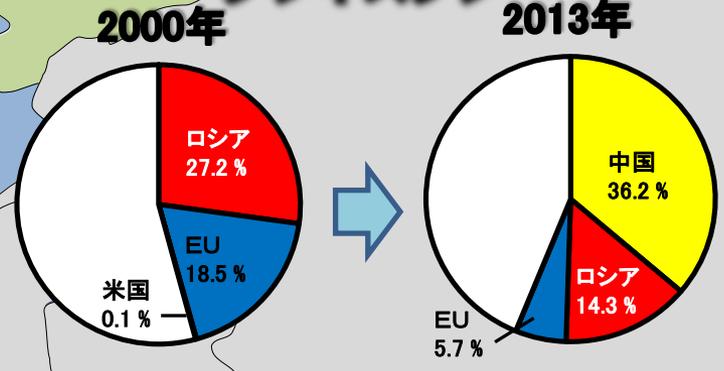
キルギス



トルクメニスタン



タジキスタン



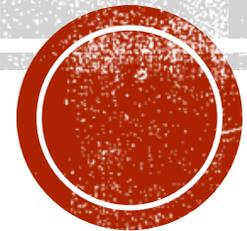


Source: <http://www.eia.gov/countries/cab.cfm?fips=TX>

中央アジアの地政学的な特徴

BY DR. ANDREW KUCHINS

- I. ユーラシア“世界島”
- II. なぜアメリカにとって中央アジアが重要なのか
 - ・ アフガニスタン／パキスタン
 - ・ 中国
 - ・ イラン
 - ・ ロシア
- III. ユーラシアを再統合するための戦略的特徴
 - ・ シルクロード時代のユーラシア
 - ・ 貿易の拡大と中国，インド，ロシアとの経済関係
 - ・ 中央アジア：
 - ロックされた地域ではなく，リンクされた地域
 - ・ 物理的インフラ
 - ・ ソフトインフラ
- IV. 結論



「2014年以降のアフガニスタン –中央アジアへの挑戦及び課題–」

フドベルディ・ホリクナザル タジキスタン大統領付属戦略研究所長

- アフガニスタン情勢について
- アフガニスタンが直面している諸問題
- 中央アジア諸国が直面する諸問題
- 地域安全保障分野における脅威
- 集団安全保障条約機構(CSTO)及び上海協力機構(SCO)が果たす役割
- 地域安全保障を獲得するための諸課題

アフガニスタン問題解決の展望 ウズベキスタン

- アフガニスタンの状況
- 今後のリスク
- 「イスラム国」の活発化
- 平和裡の政権委譲 「国家統一政府」の形成
- 危機解決の方法
- アフガニスタン復興へのウズベキスタンの貢献

運輸・物流（トルクメニスタン）

1

国内政策

現在の状況

- 鉄道総延長距離：13,670 km
- 車道総延長距離：13,700 km（90%が堅固な舗装）
- 国内航路：700 km以上
- パイプライン：約10,000km

トルクメニスタンの課題

十分な受入・輸送能力があり、安全・確実で、更に高度で環境に優しい運輸システムの構築

国内におけるトルクメニスタンの施策

1. 09～14年の期間に70億米ドルを運輸・交通網に投資
2. 新規鉄道・幹線道路の敷設、主要な鉄道・道路の整備、国際空港・トルクメンバシ港の近代化
3. 12～16年に運輸・交通の発展のため先進的な技術と設備を備えた革新的な原則の利用・導入を図る

2

国際協力:

国連専門機関（欧州経済委員会、アジア太平洋経済社会委員会）との緊密な協力

トルクメニスタンのイニシアチブ

1. 国際会議「中央アジア及びカスピ海地域における運輸・トランジット発展の展望」（於：アシガバット、12年5月）
2. 「国際協力、安定的かつ持続的な発展を確保する運輸・輸送回廊の役割に関する国際会議」で宣言を採択（於：アシガバット、14年9月）
3. 「持続的な発展のための国際協力を確保する上での運輸・輸送回廊の役割」に関する国連決議を採択（第69回国連総会、2014年12月）

具体的な施策

1. カザフスタン-トルクメニスタン-イラン間大陸横断鉄道
2. 国内中部・イラン間鉄道（300km）
・北部ウズベキスタン国境・アシガバット間鉄道（530 km）
・東部国境沿い鉄道（215 km）
3. 航空輸送の発展
4. 運輸ナビシステム、鉄道輸送フェリー、自動車旅客ターミナルの発展

構想・方向性

1. ウズベキスタン-トルクメニスタン-イラン-オマーン間運輸・輸送回廊の創設
2. 南北（露-中央アジア）
・東西（東南アジア-中国-欧州）輸送網の発展

目的：①運輸・交通多国間回廊の創設

②全世界における商品配送の改善を目的とした様々な組合せを用いた輸送網の拡大

中央アジアにおける運輸と物流

カザフスタン

- ソ連時代，運輸システムはモスクワの統一的運用，統一の規格
→崩壊後，独自の利益や問題が噴出
- 鉄道が運輸の基本だが，独立後ネットワークは分断
(例：タジクとキルギス)
→自動車による輸送

中央アジア地域経済協力(CAREC)

- 地域運輸システムは発展中。
- 参加国：
アフガニスタン，アゼルバイジャン，中国，カザフスタン，キルギス，
モンゴル，パキスタン，タジキスタン，トルクメニスタン及び
ウズベキスタン

中央アジアにおける運輸と物流

カザフスタン

各国の運輸政策

ウズベキスタン: 外国を經由せずに国内を結ぶ鉄道・自動車道統一網の創設を希望

→(電化)鉄道の建設, アフガニスタンの鉄道敷設, 鉄道トンネルの採掘,
道路の敷設

(国内の鉄道門を整備し, タジキスタンとの関係悪化時に運輸の独立を確保する)

→自動車道はよく発達

→ウズベキスタン・タジキスタン・イラン・オマーン・カタール国際運輸トランジット
回廊合意に参加

タジキスタン: 外国との連結に特に困難を抱える

→ウズベキスタンを通らない陸上輸送としてタジキスタン・アフガニスタン・

トルクメニスタン(TAT)鉄道を計画(2013年3月, 各国の大統領が覚書に署名)

→運輸の孤立を脱するため, 鉄道建設を検討

・中国・キルギス・タジキスタン(アフガニスタン・トルクメニスタン・イランへ抜ける)
鉄道

・タジキスタン・キルギス・カザフスタン・ロシア鉄道(予算上の問題)

→CARECの枠内で自動車道の建設が実施中

中央アジアにおける運輸と物流

カザフスタン

- キルギス: ビシュケクからカザフに直接鉄道連結(電化計画あり)
- 南部と連結する鉄道敷設(中国, ウズベキスタンと協力)
 - 国内自動車道修復等(ADB, 日本政府, IDB, 中国輸出入銀行, 中国政府の支援)

トルクメニスタン:

- イランまでの路線を皮切りに, 各種鉄道を敷設。国内輸送を短縮, 国内鉄道網を連結
- トルクメニスタン, カザフスタン, イランが参加して連絡鉄道を開設(「北南」, 2014年12月), イランから露・欧州への輸送を短縮, 中央アジアの運輸・物流の可能性を開いた
- カスピ海の水陸運輸も発展, 新貨物港建設を計画

カザフスタン:

- 「北南」鉄道開設(イラン・トルクメニスタン・カザフスタン)
- カスピ海(アクタウ)に貨物港建設を計画, ドライポート計画も実施中
- アジア横断鉄道幹線道路, 大陸横断自動車道回廊(西ヨーロッパ・中国西部)等の枠組みに参加(シベリア鉄道・スエズ運河と競合, 輸送の時間を短縮)

中央アジアの水問題とは ～ 地域最大の問題



下流国

カザフスタン

ウズベキスタン

砂漠化

シル河

カンバラタ2

カンバラタ1

トクトグル貯水池

トルクメニスタン

キルギス

IRAN

タジキスタン

ザラフシャン

ヌレク

ログーン

サングトウダ1&2

AFGHANISTAN

PAKISTAN

上流国

水・エネルギー問題のプリズムを通じた中央アジア地域 キルギス

- 1 水—中央アジアの戦略的資源
生命と古い論争の源
- 2 中央アジアに於ける水問題の経緯:水資源とエネルギー
ロシア電化国家企業(GOELPO)計画とソ連の協力
- 3 中央アジア諸国の独立の時代
問題の発生源としての水資源とエネルギー
- 4 水外交とその原則
- 5 2015年:中央アジア地域にとっての新しい挑戦と展望
展望の相互関係:
 - ・経済危機
 - ・「エリート交代」と、そのあり得べき合意(consensus)性
 - ・文化には意味がある
 - ・国益, 新しい統合的団結と地域安全保障機構
 - ・資源あるいは国益をめぐる争い
- 6 中央アジア地域の潜在性としての水・エネルギー問題の解決